

1. 実況上の着目点

① 本州付近は、千島の東に中心を持つ地上高気圧に覆われている。上層では、日本海中部から沿海州にかけてのリッジと日本の南に中心をもつ高気圧の影響下。西日本から南西諸島にかけては地上露点温度24℃以上の暖湿気が下層にあり潜在不安定となっているが、沈降による乾燥高温層が中層にあり、対流の抑制、気温上昇、朝晩中心の霧や低い雲の広がりやに寄与している。

② モンゴル東部の寒冷渦の周囲の500hPa5760～5820mの強風軸に沿って水蒸気の流れが黄海から沿海州にある。

③ 大型で非常に強い台風第9号が、フィリピンの東を西進。台風周辺を波源とする周期の長いうねりが南西諸島や本州の太平洋側で観測されており、進路にあたる南西諸島では波が高まってきている。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の上層の高気圧はゆっくり東へ移動するが10日にかけて西・東日本中心にその影響下で、地上では、1項①の高気圧や9日に日本のはるか東で顕在化する高気圧に覆われる。9日は南西諸島から東北地方にかけて晴れて気温が上昇し、真夏日や猛暑日となる所がある。熱中症などの健康管理に注意。9日～10日には、台風第9号と高気圧との間を下層暖湿気が西日本太平洋側に流れ込むほか、東日本～東北地方の太平洋側にも高気圧周辺の流れに沿って下層暖湿気が流れ込む。日中の気温上昇が加わって大気の状態が不安定となり、局地的に対流雲が発達する。西日本では8日を含めて10日にかけて、東日本と東北地方では9日～10日は、落雷、突風、降ひょうや急な強い雨に注意。

② 1項②の水蒸気の流れに対応した500hPa正渦度極大域が9日朝から11日頃にかけて北海道にかかる。これに対応して850hPa相当温位336～345Kの暖湿気が断続的に流れ込み、大気の状態が不安定となり、雷を伴って激しい雨が断続的に降り大雨となる所がある。北海道地方では9日～10日は、低い土地の浸水、河川の増水、土砂災害、落雷、突風、降ひょうに注意。

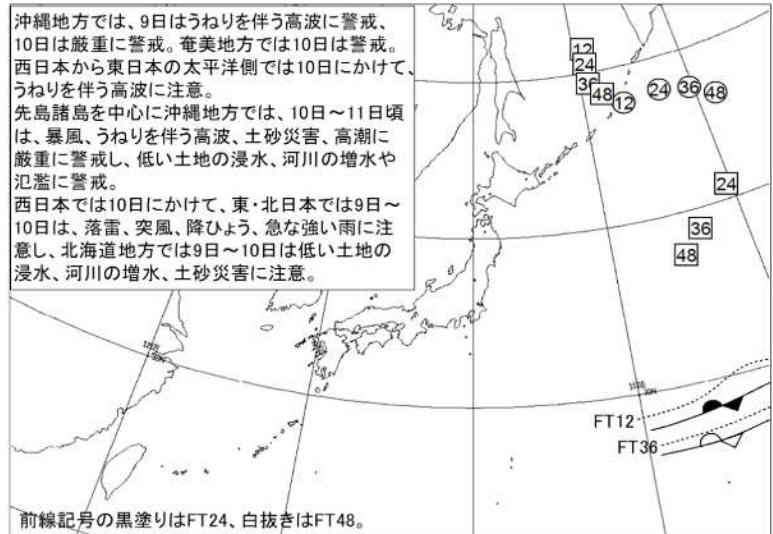
③ 1項③の台風第9号は、進路を北西に変え、10日から11日頃にかけて非常に強い勢力を保って先島諸島に接近する。台風周辺を波源とするうねりの影響で、台風の接近する前から波が高くなり大しけとなる所がある。8日は南西諸島、西～東日本太平洋側ではうねりを伴う高波に注意。9日は沖縄地方では大しけとなる。高波に警戒。奄美地方ではしける。10日には、沖縄地方は猛烈なしけ、奄美地方は大しけ、九州南部はしける。10日から11日頃にかけて、沖縄地方では暴風、うねりを伴った高波、土砂災害、高潮に厳重に警戒し、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒。奄美地方では高波に警戒。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考にする。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量（18時からの24時間）：多い所（100mm以上）はない。

② 波浪（明日まで）：沖縄7、奄美5、九州南部4、九州北部・四国～東海・伊豆諸島3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無 「全般気象解説情報（台風第9号）」を17時頃に発表予定。



主要じょう乱解説図